

3・11 福島へ！

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2012年3月1日
No 8

Tel 050-3036-6464
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

3・11 残り 10 日間決戦に総決起を！

●石田真弓副委員長(東北大学)

全国の学生の皆さん、あの日から1年目の3.11に、被災地・福島で私たち被災地の学生とともに「原発いらない！」の声を上げましょう！

私たちが行動を呼びかけている3.11は、当然ながら2万人をこえる方々の一周忌でもあります。「この日は亡くなった家族や友人のことを追悼し、静かに喪に服したい」という気持ちから、今回の行動に疑問を呈している被災者もいます。これは決して否定されるようなことではなく、理解できる思いです。

しかし、もう一方で、私も含め決して少ない数ではない被災者が、「3.11だからこそ、被災地から怒りの声を上げなければならない！」という思いを持って立ち上がろうとしていることを理解して欲しいと思います。

3.11を私たちは何をして過ごすのか。もちろん宮城でも様々な追悼の催しが企画されていますが、私たち東北大学学生自治会は、話し合いの結果、郡山で福島と被災地に心を寄せてくれる全国の仲間と共に行動することを選びました。私は過去を振り返る時、同時に現在と未来を見据えることが重要だと考えています。そうした時、福島においては今なお明確な形で3.11との闘いが続いているのではないかと、これに一つの決着を付けなければならないと考えたわけです。その決着とは、言うまでもなく「原子力村」に事故の責任を取らせ、原発の再稼働を阻止し、全ての原発を廃炉に追い込むことです。

私たちはこの1年間、被災し、沿岸部や福島に足を運び、



大学や地域で様々な活動を行うなど、多くのことを経験する中で、被災地では生きることそのものが闘いだと感じて来ました。そして、稼働中の原発が残り2基になるまで相手を追い込んでいることに勇気と確信をもらいました。「被災地の怒りと全国の仲間の怒りが一つになれば勝てる！」と。

全原発の停止まであと一歩です！ 3.11から1年間の闘いを一つにまとめ上げ、私たちの意思を力強く示すために、そして未来を築く団結を創るために、福島の地に全国から集まって下さい！ 私たちの行動で決着を付けましょう！

●鈴木研也副委員長(広島大学)

全国の学生は3・11福島に集まろう！ 私たち広島大学の学生は、この1年、被爆地ヒロシマにありながら原発事故を許してしまったことを悔やみ、被爆者の意思を引継ぎ、私たちの世代で原発も核も廃絶させることを決意し、無我夢中で駆け抜けてきました。見え



てきたのは、大学のとめどない腐敗です。「原子力ムラ」に代表される大学のあり方、より自己に引きつけば、医学を語った人殺しへの加担-広大・神谷教授の「放射能は安全」キャンペーン-をやめさせるべく、キャンパスで学生の一言メッセージを集め、申し入れを行い、ついに学長の回答を引き出しました。

学長の回答は、原発には賛成も反対もせず、福島県民の被曝データを基に医療ビジネスで産学官連携を強化する方針を開き直ったもので、許せません。いよいよ時代は非和解の極致へ突入しています。

2月以降は、伊方3号機の再稼働のための「原発事故防災訓練」を中止させるため、愛媛に訪れ、さらには島根原発2号機停止に伴い、再稼働反対のデモへ島根にも行き、中四国での再稼働阻止闘争に責任をとるべく奮闘してきました。

原発事故、これほどの放射能被害を起こしてもなお、責任をとらず再稼働をしようとしている野田政権・電力会社を許すことはできません！

3月11日は、広島から被爆者とともに駆けつけます。一緒に参加しましょう。



↑ 2月26日、被災地仙台で120名が結集して春闘集会を打ち抜く

原発再稼働阻止！ NAZENが経産省に対して 52110筆の「反原発」署名提出！

2月28日、NAZEN（すべての原発いまずぐなくそう！全国会議）の呼びかけで原発再稼働阻止に向けた署名提出行動が闘われた。

全国から集まった「反原発」署名は52110筆！ 経産省は不当にも、署名提出で中に入れるのは6名までと制限をかけてきた。これに対し、結集した30名を超える労働者・学生・市民が経産省に対して怒りのシュプレヒコールを叩きつけた！（写真下）

NAZEN事務局次長の富田翔子さんは「今日は1人の母親として来ている。福島の子どもたちは避難の権利さえ与えられていない。子どもたちの未来をどう思うのか。賠償もしていないで何が再稼働だ！」と出てきた経産省官僚を弾劾。

NAZEN事務局長の織田陽介君は「この署名には一人ひとりの再稼働反対の思いが詰まっている。」と訴えた。

法大の倉岡雅美さんは「法大で集めた400筆を超える署名は、法大当局の写真撮影や恫喝に負けないで



必死に書いた血の一筆一筆です」と署名の意義を明らかにし、署名を提出。（写真上）

結集した首都圏大学1年生は署名提出行動を打ち抜いて「官僚の対応を見て国に対する不信感がますます芽生えた」と原発再稼働に突き進む経産省のあり方を弾劾。

最後に富田翔子さんが「署名の重みをどれだけ活かすことができるか、NAZENの闘いにかかっている。これからもあきらめしないで闘っていこう。」と呼びかけ、3・11への結集を訴えた。

全原発停止と原発廃炉まであと一歩！

残り10日に迫った3・11福島県民大集会に向かって、全力で組織化決戦に突入しよう！



「再稼働阻止！全原発廃炉」に向けて、みんなで参加しよう！

原発いらない！3/11県民集会

【要項】 3月11日（日）福島県郡山市・開成山球場
13:00～オープニングコンサート 15:00～デモ
夕方から全国学生集会やります！